

■物色の広がりが見られる日本株市場

日経平均株価は7月、AI(人工知能)投資の収益性や競争激化への懸念から、けん引役である半導体関連株に利益確定の売りが出たことで大幅下落となりました(図表①)。一方で市場全体の値動きを表すTOPIX(東証株価指数)は底堅く推移し、一極集中相場からの転換とも取れる動きが見られました。

足元では米ハイテク株への見直し買いを背景に日経平均株価は戻り基調にあります。それでも最高値圏で推移するTOPIXとは対照的に、6月末に付けた最高値(72,366円)からは依然距離がある状況です。

業種別株価指数の騰落率を確認すると、年初から上昇してきた半導体関連株を含む鉄鋼・非鉄や電機・精密は6月末対比で下落している一方、これまで出遅れていた情報通信・サービス、自動車などの業種は足元で上昇していることがわかります(図表②)。これまでのAI・半導体集中相場が和らぎ、幅広い業種に物色が広がってきていることが読み取れます。

背景には、企業による第1四半期の決算発表で、保守的だった期初の業績見通しが幅広い業種で見直されたことがあります。業績予想を上方修正した銘柄を中心に買いが入ってきており、物色の広がりを通じた相場全体の底上げが期待されます。

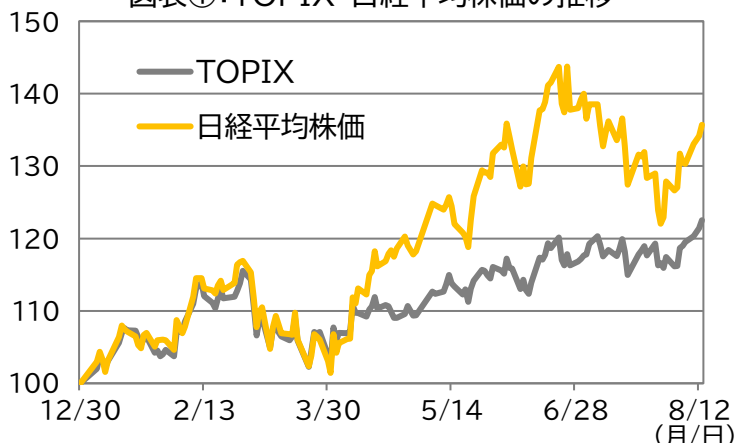
■分散投資の受け皿として注目したい中小型株

好業績を背景とした物色の広がりが一層進展すれば、出遅れている中小型株にも見直し買いが及ぶと想定されます。

米株式市場では、先んじて中小型株の上昇が際立っています。年初から8月13日までの騰落率を見ると、S&P500の+13.9%、NASDAQ総合の+15.3%に対し、米国の中小型株の指数であるラッセル2000は+23.0%と、主要指数を大きく上回っています。また、対大型株(ラッセル1000)の相対指数も改善傾向にあります(図表③)。米国市場では主要ハイテク株以外にも、投資資金が流入していることがわかります。

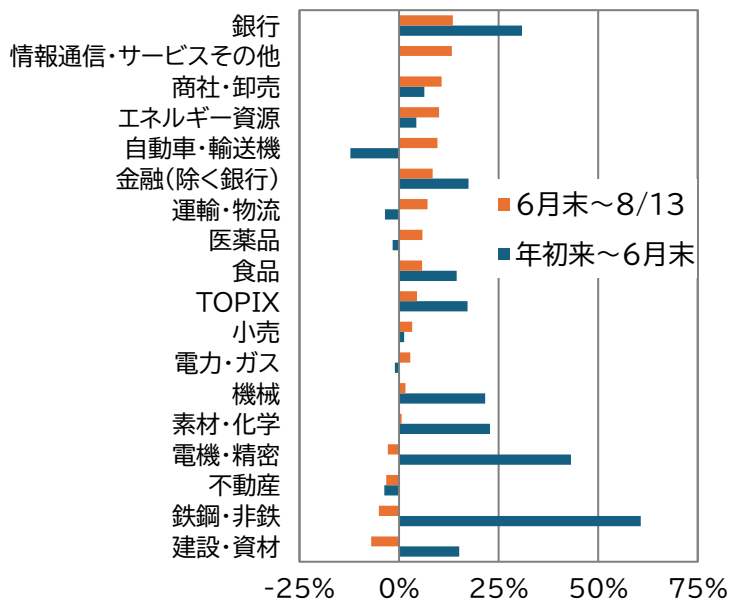
世界的に中小型株への注目度が高まる展開となれば、日本の中小型株もその恩恵を受けることができると考えられます。

図表①:TOPIX・日経平均株価の推移



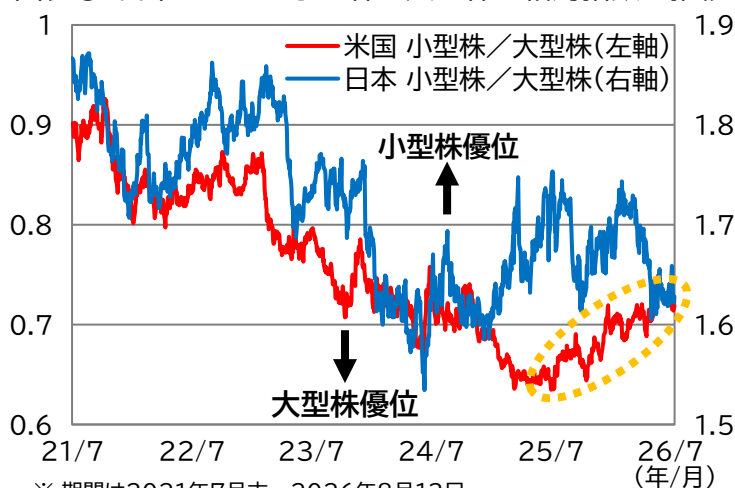
※ 期間は2025年12月末～8月13日、2025年12月末を100として指数化(出所)Bloombergよりいちよしアセットマネジメント作成

図表②:業種別株価指数(TOPIX-17シリーズ)の騰落率



(出所)Bloombergよりいちよしアセットマネジメント作成

図表③:日米における小型株と大型株の相対指数の推移



※ 期間は2021年7月末～2026年8月13日
 ※ 日本の小型株はTOPIX Small、大型株はTOPIX100を使用
 ※ 米国の小型株はラッセル2000、大型株はラッセル1000を使用
 (出所)Bloombergよりいちよしアセットマネジメント作成